

FREE

ご自由にお持ちください。

No.832  
2023 January

1

岐阜県の森林・林業

も り  
森林のたより



News of the forest



木の香るぎふの施設  
～岐阜県立各務原高等学校図書室～



●詳細は8ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
1月13日(金) 1月15日(日) 1月22日(日) 1月29日(日)	スプーンクラブ	●一般の人々に木工に親しんでもらう機会を作るため、月に3~4回程度、伐ったばかりの生木を斧やナイフで削る「グリーンウッドワーク」の手法でスプーンを作る「スプーンクラブ」を実施する。	ぎふ木遊館  TEL 058-215-1515
①1月22日(日) ②1月29日(日) 計2回	シカの足標本づくり ~アニマルトラッキング にも利用できる~	●定員: 8組 ●受講料: 8,000円 ●申込期限: 開催日の10日前	岐阜県立森林文化アカデミー 森の工房(美濃市)  森林総合教育センター(morinos) TEL 0575-35-3883
1月27日(金)	(仮称)森林サービス産業推進協議会設立総会	●対象:(仮称)森林サービス産業推進協議会会員 ※協議会への参加申込は右記の問合せ先、またはメールアドレス"c11513@pref.gifu.lg.jp"までお問い合わせください。	岐阜県庁舎 ミナモホール  岐阜県 森林活用推進課 TEL 058-272-8821
2月11日(土)~ 12日(日)	森林空間を楽しむための 「MRS-1 ベーシックツ リークライマー講習」 ~樹上の世界へようこそ~	●対象: 16歳以上の軽登山程度の野外活動ができる方 ●定員: 8名 ●受講料: 36,000円(学生は2割引) ●申込期限: 令和5年2月1日(水)	岐阜県立森林文化アカデミー コテージ前(美濃市)  ツリークライミング®クラブみやあ TEL 0587-74-0454



市況	18
林業者向けお知らせ	17
山林協会通信 10	17
森林技術・支援センターの新庁舎が完成	16
国有林の現場から (75)	15
スマート林業通信 (31)	14
普及コーナー シイタケ原木をめぐる事情	13
地域の人 木材生産を合理化する地域のリーダー	12
地球温暖化が菌床シイタケ栽培に及ぼす影響	12
研究コーナー	11
山林協会通信 9	11
シリーズ『森林・環境税』で「緑豊かな清流の国ぎふづくり」(9)	10
至急情報求む! エゴノキの森を探しています!	9
森林と人を活かす知恵 (120)	8
木の香るぎふの施設 (118) 岐阜県立各務原高等学校図書室	8
morinos プログラム紹介!!	7
ぎふ木遊館通信	6
傘寿記念学年同窓会、アサギマダラ	5
山のおしやまし (378)	4
山の歳時記 209 門松のタケ	3
年頭のご挨拶 岐阜県 林政部長 高井峰好	3
新年のご挨拶 (公社)岐阜県山林協会 会長 日置敏明	2
イベントカレンダー(一般向け)	2



表紙●詳細は8ページをご覧ください。

# 新年のご挨拶

(公社)岐阜県山林協会 会長 日置 敏明

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症も、依然として「第八波」拡大の懸念はあるものの、大きな流れとしては「ウイズコロナ」、「アフターコロナ」の局面に入ってきたように思われます。今年は、県民生活及び社会経済活動の両面において更なる改善が実現し、私たちの生活全般がコロナ前に近づくことを祈っています。

さて、岐阜県においては、ここ十年間で、合板工場をはじめ、製材工場、木質バイオマス発電施設など大規模な工場の稼働により木材需要が拡大しました。これに対応して川上では路網の整備や機械化が進んだ結果、木材生産量は約二倍の五八万㎡まで増大し、その基盤を支える山村地域の活性化が図られてきました。しかしながら、三階建て以下の住宅の木造率は八割を超えていますが、商業施設などの非住宅建築物や中・高層建築物では僅か一割程度であるとも聞いており、山村地域の活性化の視点からも、木材の需要先のさらなる開拓が求められています。一方、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現やSDGsの達成など、森林・林業に求められる役割はますます大きくなっており、大気中の二酸化炭素の吸収を促す森林整備の推進に加えて、炭素を長期間貯蔵するという観点から、住宅や家具等への木材利用を強力に進める必要があります。こういった中、昨年の六月県議会において、知事から、「県産材利用の拡大に向けては、第一に、非住宅建築物等の木造化を進め、需要の拡大を図る、二番目に、県産材を利用することによる炭素貯蔵量の認証制度、あるいは優良建築物等に対する表彰制度を創設するなど、企業の取組を後押しする、三番目に「ぎふ木育」を通じた県民への普及啓発を行うべく、四番目に、県自らも県有施設の規模に応じた木造化・木質化の義務づけを進めていく」との発言がありました。そして、その具体化とし

て、昨年の十二月県議会において「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」が制定されました。この条例は、基本理念に、脱炭素社会の実現、循環型社会の形成、地域経済の活性化をあげており、県産材利用拡大を通じ、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現やSDGsの達成、山村地域の活性化に大きな効果をもたらすものと大きな期待をしています。

昨年は、本県では大きな山地災害の発生はありませんでした。八月には、隣県の福井県、石川県をはじめ北陸地方で大きな山地災害が発生しており、依然として、災害への対応は不可欠です。岐阜県では、これまでも治山事業や森林整備事業の推進により「災害に強い森林づくり」が進められてきましたが、県土の八十一パーセントを森林が占める岐阜県においては、防災・減災対策の視点からの治山事業や森林整備事業の推進による健全な森林づくりが、「県民の安全・安心の確保」の柱となることは言うまでもありません。当協会といたしましても、国や県に対する制度や予算の充実の要請等を通じて、防災・減災対策としての治山事業や間伐等の森林整備事業の推進に寄与してまいりたいと考えております。

森林づくりは、「親が植え、子が育て、孫が伐つて利用する」という三代にまたがる息の長い営みと昔から言われています。「植えて、育てて、伐つて、利用する」森林づくりの原点は、資源循環型社会の姿そのものです。当協会といたしましても、こういった森林づくりの基本を踏まえ、岐阜県の豊かな森林の生み出す多様な恵みを、一〇〇年先の県民も享受できるように、岐阜県の森林づくりと山村地域の活性化に取り組みでまいりますので、皆様の御支援を御願いたします。

結びになりますが、今年一年の皆様のご多幸を祈念しご挨拶いたします。

# 年頭のご挨拶

岐阜県 林政部長 高井 峰好

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

本県では、この1月から新県庁舎の供用を開始しています。新しい庁舎には、外壁に県産タイル、内装にヒノキをはじめとする県産材や美濃和紙が活用されており、来庁者の方々が憩うスペースには、飛騨や美濃の家具が設置されています。新県庁舎そのものが「清流の国ぎふ」のシヨウウィンドーとなっておりますので、皆様もぜひ一度お立ち寄りください。

なお、貴協会及び岐阜県木材協同組合連合会、岐阜県森林組合連合会の3団体には、旧庁舎に設置の木製衝立4台を修繕していただきました。改めてお礼を申し上げますとともに、新庁舎でも大切に使用させていただきます。



新庁舎総合案内

さて、昨年8月の豪雨により、岐阜市鶯谷地内で山腹崩壊が発生し、鶯谷トンネルが一時通行止めとなったため、土砂流出防護用ネットを設置するなどの応急対策を実施し、その後、恒久的な対策として、法枠工等の治山工事を進めています。このような頻発化する災害に対して、昨年度から始まった森林整備と治山施設整備を組み合わせた「事前防災モデル地区」の整備を、市町村や林業事業者と連携して全県展開することで、山地防災力の強化に取り組んでいるところで

また、2050年カーボンニュートラルの実現やSDGsの達成など、森林・林業に求められる役割がますます大きくなる中、あらゆる分野における県産材の利用を強力に進める必要があります。そのためには、県民、企業など全ての人のご理解・ご協力が不可欠であることから、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」を今年の4月1日に施行することとしました。この条例では、県産材の需要拡大のため、県産材住宅ばかりでなく、非住宅建築物の木造化や内装木質化を推進するとともに、県産材の多段階利用や新分野における木質バイオマスの利用を促進するなど、「オール岐阜」体制で県産材を利用する仕組みづくりを進めていきます。具体的には、県と事業者との間で県産材の利用促進に関する協定を締結し、事業者へ支援を行うほか、県産材を使用した建築物等に対して炭素貯蔵量を認定・公表することを考えています。まずは、具体的なアクションプランである「県産材利用推進計画」に基づき、県の建築物等に求める木造化・木質化を進めていきます。

さらに、豊かな森林空間を活用し、健康、観光、教育など、様々なサービスを提供することで雇用を生み出し、山村の活性化に繋げる新たな産業「森林サービス産業」を普及・促進していきたいと考えています。このため、今月27日には、事業化への課題解決や効率的な事業展開に向けた「森林サービス産業推進協議会」を設立しました。また、「ぎふ木育」の全県展開を目指した木遊館サテライト施設の整備や岐阜県独自の森林吸収クレジット制度である「Gクレジット(仮称)」についても検討を進めています。

結びになりますが、本年が岐阜県の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

年の初めの初詣。

初詣が習慣化したのは明治時代中期頃とされ、そもそも一家の家長が大晦日の夜から元日の朝にかけて氏神の社に籠もる「年籠（としこ）もり」が由来とか、その年の歳徳神の方向に位置する社寺に詣でる「恵方詣り」が由来とかさされます。

そして初詣で必ず目にするのが「門松」です。

古来日本では、「門」は母屋の前

の庭や陽の当たる南の庭などを指し、そこに歳神が降臨するためのマツを植えていました。

これは唐の時代の中国で、家の門の前に長寿を象徴するマツを飾ったことが起源とされ、平安時代の貴族は新年の「子の日」に、マツの稚樹を引いて家に持ち帰る「小松引き」を楽しんでいたそうです。

京都など歴史を重んじる地域では、根の付いた小さなマツを和紙で包み水引を掛けた「根引きの松」を、現在でも玄関の両側に飾ります。

門松を飾る習慣は中世末以来の洛中洛外図にも見られ、初期にはマツだけを飾るものでしたが、室町時代に現在のような門松の原形が確立しました。

門松のつくり方は関東風と関西風の違いがありますが、「松は千歳を契り、竹は万代を契る」とされ、長寿を約束するマツと繁栄を約束

するタケの例えから、必ずマツとタケが使われています。

マツを飾る理由は、岩場ややせ地など過酷な条件でも育つ生命力、常磐松の言葉からわかるように常緑であること、「門松」や「神を待つ」の言葉に繋がることからとされます。

またタケは毎年多くのタケノコを出し、驚くほど成長が早く、中空でありながら強靱でしなやか、そして冬でも青々と葉をつけるなど、様々な点で霊的な植物とされたりからです。

ところで岐阜県で見られる門松のタケの多くは、先端部分を斜めに切ったものですが、このタケの仕立て方には2つの形があります。

1つは前述のように、先端部を斜めに切った「そぎ」と呼ばれる形、もう1つが節のところまで真横に切った「寸胴（ずんどう）」で、元々は寸胴

仕立てが主流でした。

「そぎ」は徳川家康が三方ヶ原の戦い（1573年1月25日）で敗北した後、対戦相手の武田信玄に対して、タケを武田家になぞらえて「この次は武田の首を斬る」という念を込めたのが始まりとされます。ちなみに武田信玄を祭神とする武田神社の門松のタケは「寸胴」であり、甲府市などではタケのみを飾る門松も見られます。

私たちの祖先は、木々の梢に神が降臨すると考え、そうした考えを基にして神社では御神木に注連縄を、歳神を迎える玄関口には門松を飾ってきたのです。



▲寸胴仕立ての門松



# 山のおじゃまむし



## 一傘寿記念学年同窓会、アサギマダラ【第378回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

昨年（2022年）の4月に1通のはがきが届いた。高校の同窓会案内であった。そこには太字で、傘寿記念・学年同窓会のご案内と書いてあり、その後には

♪そそり立ちたる乗鞍の山 たぎち流るる宮川の水  
山と水とを後に前に 控えて抱きてわれ等は集う♪

と校歌が記してあった。なつかしくなり、思わず口ずさんでしまった。学生帽をかぶり、制服を着て通った校舎。先生、友たちの顔が次々と目に浮かんできた。この同窓会は今までに何回も開かれている。若いころは10年に1回。それが、年を重ねるごとに間隔が短くなり、最近では3年であった。平均寿命に近づいたからである。それが、今回はコロナの影響で6年も開かれていない。「ようやく皆と会える」と嬉しくなった。その日が来た。場所は高山市の「ひだホテルプラザ」で午後5時開催。30分前に着いたら、多くの友が来ていた。「久しぶり、元気か」、「お陰様で。お前はどうか」などの会話があちこちから聞こえてきた。皆元気そうであった。受付で出席者名簿が渡された。出席者は221名中48名で、前回よりかなり少なかった。驚いたのは物故者が64名もいたこと。3割近くが天国へ旅立っていたのである。心が痛んだ。これが傘寿か。天国にいる在りし日の友の顔が次々と目に浮かんできた。

× × × ×

いよいよ同窓会の開始だ。幹事が挨拶をした。物故者が増えているので、健康には気を付けましょう。そして、この同窓会は今回で最後とします。もう会うことはないでしょうから、昔話に花をさかせてくださいとの言葉。そして乾杯。最初は同じテーブルの人と飲んでいたら、そのうちに別のテーブルへ。そして次のテーブルへと移動し飲んで語り合った。出てくる話題で多いのは病気のこと。「お前医者通いをしているのか」「もちろん、医者通いの日々だよ」。こんな会話が多かった。「やっぱりそうか」と思った。私自身、内科、耳鼻科、眼科などの医者のはしごをしているからである。多いのは高血圧、糖尿病であった。私と同じだ。歳をとるとこの病気が多いのかと再認識した。女性にも聞いたところ、ほとんどが健康だという。確かに顔つやがよく、声にはりがあり、よく動くなど元気がいい。これが80近いおばあちゃんなのか。それで女性の方が長生きするのだと思った。また、男性の中には医者とは無縁と言う者も数人いた。酒は強いし、よく食べる。しかし、物忘れ病は年々進んでいると笑っていた。

× × × ×

車椅子で参加した友が二人いた。ともに病気で歩けなくなったからである。一人は医者から余命6か月と言われたこと、もう一人は心臓の機能が悪化したからである。二人とも次の同窓

会に参加できないだろう。それで出席したのだという。すごい。私だったら間違いなく欠席だろう。この気力には驚いてしまう。女性とも話をした。しかし、親しい人には旧姓で呼んだり、時には「〇〇ちゃん」などと声をかけてしまうこともある。これが同窓会。本当によい会だと思う。また、ある女性から「あなたの虫友達だったNさんはいつ亡くなったの」と聞かれた。「16年前だよ」「もうそんなになるの」。彼女はN氏との思い出話をしてくれた。そういえば私にもN氏との忘れることのできない思い出がある。高校2年の時城山公園で見たアサギマダラだ。公園内の草地を飛び回っていたのである。その数数10匹、いや数100匹かもしれない。とにかく多かった。その光景は60年たっても、忘れることができない。N氏ともう一度見てみたいと思ってしまう。今回の同窓会で大きく変わったのが男性の頭。白髪、はげ、ごま塩頭などいろいろだ。60年間でこんなに頭が変わってしまった。まさに傘寿記念同窓会だと思ってしまう。



× × × ×

あつという間に時間が過ぎ、閉会式だ。幹事の挨拶が終わると、突然某氏が「この同窓会をこれからも続けよう」と大きな声。皆が拍手。「それでは次の幹事を決めてください」と現幹事。しかし、誰も手をあげない。すると誰かが「言い出しっぺの某氏だ」と大きな声。一斉に拍手。これで決まり。同窓会が続くことになった。「2年後にまた会おう」と言って会場をでた。次は二次会だ。参加者は男10名、女11名と今回も女性が多い。今回もカラオケ喫茶。好きな曲を歌いまくった。曲は男性が演歌。それも40年以上前のものが多い。これに対し女性、いずれも今の歌。テレビでよく見る、踊りながら歌っている若者の歌だ。こんな曲を80近いおばあちゃんが歌っている。思わず笑えてきた。ある女性がデュエットで歌おうと声をかけてくれた。私は森繁久彌の「知床旅情」を選んだ。かつてよく歌ったからである。しかし、歌っている途中で「あなたは駄目」と首にされた。しかし、よい思い出になった。二次会を含め楽しい同窓会であった。5日後、新聞を見て驚いた。おくやみ欄に同窓会で会ったばかりのK氏の名前が載っていたからである。数日前に「お互い長生きしようぜ」と言葉を交わしたばかりだったので信じられなかった。





# ぎふ木遊館通信



## 大人も楽しむ木遊館

「木遊館は子どもがいないと楽しめないと思っていました」

「童心に返って久しぶりに熱中した」「この年になって初めての木工作業にドキドキした。この感覚が楽しい」

「心豊かな時間を過ごすことができました」

これらは、木育プログラムに参加した大人の皆さんの感想です。

ぎふ木遊館では土日祝日に木育プログラムを開催しています。その多くは子どもや親子を対象としたものですが、中には高校生以上の大人をターゲットにしたものもあります。今年度から始めた「スプーンクラブ（生木を人力で加工する木のスプーンづくり（森林のたより2022年6月号参照）」や山県市伝統の「伊自良大実連柿の干し柿づくり」など知的好奇心をくすぐるものから、子どもも大人も関係なく技を磨く「けん玉力認定会」や「いとこのこ」などです。

「ぎふ木育30年ビジョン」で示されているように、森林に対して責任ある行動をとることができる人づくりに向けては、大人であってもふれあい親しむ（＝楽しい!と思える）段階から体験していただきたいと思っています。そして、本物の素材に触れたり、自らの手で作ることを通して、単にモノを消費するだけでなく、持続可能な社会の実現に向けて、自らの体験から学んだことを次世代へ伝えていってほしいと願っています。

「対象が小学4年生以上って書いてあるけど、大人だけで申し込んでもいいのかしら?」と不安に思うかもしれませんが、全く構いません!ぜひお申込みください。参加について不安がある方は事前にご相談いただいても結構です。

開催予定の木育プログラムはこちらを参照してください。



伊自良大実連柿づくり



けん玉力認定会



いとこのこ



スプーンクラブ

## 大人の学びの場所として

開館以来、多くの企業・団体・学校職員などの視察研修を受け入れています。木育の視点以外にも、建築、福祉、まちづくりなど様々な視点で、学びの場としてご覧いただいています。受け入れの時間帯や人数に制限もありますが、事前にご相談いただければ日時を調整いたしますので、ぎふ木遊館企画運営係（058-215-1515）へご相談ください。



やがてみんなの森になる

# morinos

## プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター (morinos) で実施しているプログラムについてご紹介します!

### <清水建設(株)と森林文化アカデミーとの連携による企業研修(森林空間活用型企業研修)>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは、清水建設株式会社さんと森林文化アカデミーとの連携協定に基づいて実施している森の中で行う企業研修プログラムです。

この森林体験を通じた企業研修は今年で3年目になりますが、今年は下記の4つをねらいとしました。

- ① 建設業の根幹である"協働すること"の楽しさを知る(再確認する)
- ② チームにおける自己開示および他者理解の必要性を体感する
- ③ チームにおける自分の性格(行動特性)を知る
- ④ 新入社員同士の横の繋がりを形成する

午前中は、イントロダクションとして自分の安心する「コンフォートゾーン」や馴染みがない環境での学びやチャレンジをする「ストレッチゾーン」、落ち着いてはられない「パニックゾーン」について紹介し、この研修中はチャレンジを意識してみてほしいと伝えます。

自分の自然とのかかわり(自分史)について仲間に共有したり、身体を仲間に完全に預けるトラストフォールなどのプログラムを通して、チームとしてつながることや他人を頼り、頼られる感覚を体験していきます。



イントロダクションでの説明



自然との関わりとともに自分史を共有



トラストフォール  
やりたくない人は「やらない」という  
選択することも重要な意思表示

午後は「森の素材で『森とつながる』はだしのトレイルづくり」を通してチームとしての共同作業を互いの意見や思いを尊重しながら進めていきます。ただし、各グループ内には「話すことができない」「目が見えない」という個性を持ったメンバーがそれぞれいるという設定です。すべてのメンバーがトレイルづくりに「参加」できるよう話し合い、作業を進める必要があります。



チーム全員で状況や計画を共有



アイマスクをしての作業



完成したトレイルをはだして歩く

グループごとに、今日の体験と「自己開示」「他者理解」をキーワードに「気づき」や「感じたこと」を一言で表現し、仲間に紹介してもらい、全体のふりかえりで互いの気づきや学びを共有しました。

morinosが大切にしている森林での体験からの気づきと学びが、企業研修においてもできることを実感しました。

こうしたプログラムはmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



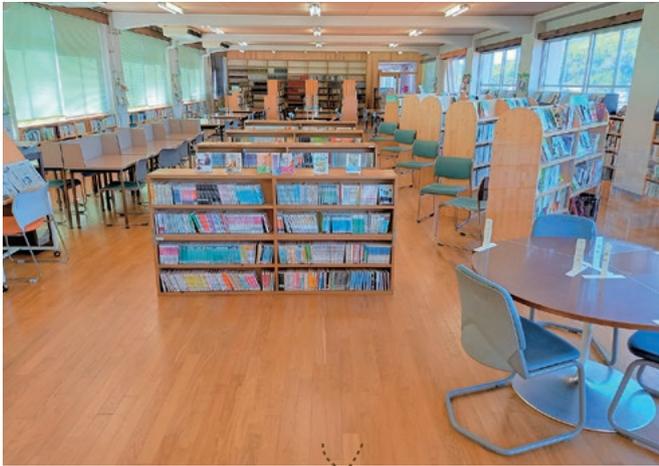
morinosHP



YouTube  
「morinosチャンネル」

# 岐阜県立各務原高等学校図書室

各務原市蘇原新生町2-63



施設全景

## 施設概要

事業年度	令和3年度
事業主体	岐阜県
構造 延床面積	鉄筋コンクリート造 288㎡(図書室部分)
施設用途	学校図書室
木材使用量 使用樹種	10.42㎡(県産材100%) クリ、スギ、ヒノキ
全体事業費	24,332千円(県有施設木質化等推進事業)
助成額	—
設計者	株式会社宮崎一一計画工房
施工業者	日鋼建設株式会社
工期	令和3年6月~9月

## 施設の経緯

- 築50年が経過した本校では、図書室のプラスチックタイルやスチール製書架が交換時期となり、明るい印象の部屋とするために県産材を使って改修することとしました。
- 県有施設木質化等推進事業で、岐阜県産のクリ材、スギ材、ヒノキ材をふんだんに使って、床や壁、書架、カウンター等を改修し、木のぬくもりが感じられる居心地の良い空間となりました。



## ここに注目!!

本校の図書室は、県立高校で最も面積が広く、クリフローリングの落ち着いた木目や色合いに包まれた図書室となりました。

## 利用者の様子

木の香りがする空間は、生徒たちから雰囲気があたたかくなったと評判が良く、ゆったりと図書室を利用するようになりました。



本棚と雑誌架も、  
岐阜県産材で  
新調しました!

■問い合わせ先  
岐阜県立各務原高等学校  
TEL 058-383-1015

## 至急情報求む！

# エゴノキの森を探しています！

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 久津輪 雅

岐阜県内、できれば美濃市近郊で、直径4〜6センチの通直なエゴノキがまとまって生えている里山林、それも伐採・収穫の許可が得られる場所をご存知ないでしょうか。日本全国の和傘生産に欠かせない材料で、至急情報が必要です。この記事をお読みいただいた方は、心当たりがありそうな方にも拡散していただけると幸いです。ご協力をお願いします。

エゴノキを用いて作られるのは、和傘の骨をつなぎ開閉するための部品「傘ろくろ」です(写真①)。細い傘では直径3センチの傘ろくろの周囲に40本以上の切り込みを入れ、さらに糸を通すための穴も開けます。これだけの加工をしても折れにくい、しなやかな繊維を持つのがエゴノキなのです。他の樹種も試したものの固すぎたり折れやすかったりするため、エゴノキが最良とされています。伐採後1年以上乾燥させ、短く切って中心をくり抜き、樹皮を削って加工します。そのため傘ろくろの寸法より少しだけ大きい直径4〜6センチが最も適しています。それより太いと削る量が多すぎて、加工が難しいのです。



写真①

エゴノキを収穫するのは、かつては炭焼き職人の仕事でした。里山を皆伐した際に、エゴノキは炭にせずに和傘業者に販売していたのです。切られた株からはふたたびエゴノキが萌芽し、10年ほどで直径4〜6センチに育つので、持続的に収穫することができます。萌芽更新で育った幹は通直で、加工にも適していました。

岐阜の和傘業者のためにエゴノキを収穫する最後の人が2012年に亡くなり、森林文化アカデミーが協力して美濃市内にエゴノキの林を探し出しました。瓢ヶ岳の標高800メートルほどの場所にかつての水田跡があり、通直なエゴノキがまとまって

生えていたのです。エゴノキは水を好むことから、水田跡は生育の適地だったようです(写真②)。それ以来毎年11月、この森に全国の和傘職人やボランティアが集まり、和傘材料をみんなで収穫する「エゴノキプロジェクト」を続けてきました。2メートルに切ったものを毎年2〜3000本収穫しながら、切り株から萌芽更新させて持続的に利用する計画でした。



写真②

しかし更新は進みませんでした。原因は増えすぎたシカやカモシカです。切り株から出た萌芽枝のほとんどが被害に遭い、エゴノキがなくなってしまうのです。そこで2021年、県の森林・環境税を得て20メートル四方を柵で囲んだ「和傘の森」を作

り、シカの被害を防ぎながら更新を促す取り組みを始めました。幸い、柵の中の切り株からはたくさんのお芽枝がすくすくと育ち始めましたが、収穫まではまだ数年かかります。瓢ヶ岳でのエゴノキの収穫はひとまず2022年までとして、2023年秋からしばらく新しい場所で収穫を続ける必要がありそうです。

実は傘ろくろを生産する木工所は、全国でも岐阜県岐南町に1軒しかなく、岐阜でエゴノキの収穫がストップすると日本中の和傘生産がストップしてしまいます。そうなるに歌舞伎や日本舞踊などの芸能、神事や茶会などの行事と、和傘を用いるあらゆる伝統文化に影響が及びます。

改めて希望する条件と連絡先を記します。条件に合う場所をご存知の方はぜひご連絡ください。

### 条件：

- 直径4〜6センチ
- 通直で節や枝が少なく
- 2メートルに玉切りして2〜300本の量が毎年必要
- 30〜40人ほどが林に入り、作業ができる
- 搬出・運搬のための道路に近い
- 所有者から伐採の許可が得られる

### 連絡先：

エゴノキプロジェクト実行委員会  
代表 長屋一男 (有限会社 長屋木工所)  
〒501-6003 岐阜県羽島郡岐南町平島7-26  
058-247-2848  
rokuroya2518@gmail.com

## 『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

## 次代の環境活動を担う人材育成支援事業

次代の環境活動を担う人材育成支援事業は、清流の国ぎふ森林・環境税の趣旨に則り、住民向けの環境教育講座や住民参加型の自然環境保全活動など、地域の環境活動を担う人材育成事業を行う市町村を支援しています。

令和4年度に採択された5事業の中から、今回は2事業をご紹介します。



## 環境保全に向けた人づくり推進事業(中津川市)

## 【事業目的】

持続可能な自然環境保全のための体制整備と市民意識の高揚を図りながら、地域の自然環境を守る仕組みを作り、自然を調べ、育み、活かしていくことで、中津川市生物多様性地域戦略における将来の環境像「連携と協働による持続可能で自然を生かした地域づくり」の中核人材育成を目指す。

## 【事業内容】

- 森・里・川の達人養成講座
- 循環型で脱炭素な社会の構築に向けた環境学習の実施
- 県産材を活用した木箱コンポストによる生ごみ堆肥化の推進
- 希少植物の保全活動の推進と担い手育成



▲県産材を活用した「森の木箱コンポスト講座」  
生ごみ堆肥化推進のための人づくりとして、  
中津川市区長会連合会と連携し実施

## 土岐市の未来につなぐ人材育成推進事業(土岐市)

## 【事業目的】

市と園と家庭が一体となって環境保全に取り組む「ときエコキッズ」を開始。未来を担う子どもたちにSDGsを伝え、環境に対する意識を向上させる。

## 【事業内容】

- 「ときエコキッズ」  
市内14園(全園児1,400人)が加入
- 4月～3月:職員または、環境サポーターによる環境学習プログラムを実施。また、毎月10日は、「環境にやさしくする日」として園や家庭で一つ環境にやさしいことを実践し、「ときエコキッズメッセージシート」を発行



▲肥田幼稚園での環境学習プログラム  
職員と園児と一緒に地球を救う方法を考える講座





# 「令和4年度治山林道工事コンクール ( (公社) 岐阜県山林協会主催)」の結果について

山林協会通信⑨



(公社) 岐阜県山林協会では、毎年、県の協力を得て、県内民有林で行われた「治山林道工事等」を対象にコンクールを行っています。令和4年度は、治山工事、林道工事、林道木材使用工事の3部門に応募がありました。審査結果は以下のとおりです。受賞された皆様おめでとうございます。なお、最優秀は全国の治山・林道コンクールに推薦しました。その結果は、本誌2月号でお知らせします。(記載に当たり敬称は略させていただきました)

## 民有林治山工事コンクール

- 【最優秀】 災害関連緊急治山事業白土洞地区工事 細江土建株式会社
- 【優秀】 復旧治山事業(補正 足打谷)工事 西建産業株式会社
- 【入選】 山地災害重点地域総合対策事業 玉井土木株式会社
- 復旧治山工事行平地区工事 イビデングリーンテック株式会社
- 予防治山事業南平工事 丸ス産業株式会社
- 奥地保安林保全緊急対策事業北桑原1地区工事 田口土木株式会社

## 民有林林道工事コンクール

- 【最優秀】 恵北東(2)線 林道開設工事 志津建設株式会社
- 【優秀】 那留~六ノ里線(2工区)林道開設工事 株式会社前田土木
- 【入選】 瀬戸ヶ平線 林道開設工事 株式会社ニシノ



## 民有林林道木材使用工事コンクール

- 【最優秀】 二間手~水沢上線(4工区)林道開設工事 郡上農林事務所林業課



災害関連緊急治山事業白土洞地区工事



恵北東(2)線 林道開設工事



二間手~水沢上線(4工区)林道開設工事



復旧治山事業(補正 足打谷)工事



那留~六ノ里線(2工区)林道開設工事

【山林協会 瀬上 繁隆】

## 地球温暖化が菌床シイタケ栽培に及ぼす影響

森林研究所 ● 水谷 和人

はじめに

地球全体の気温が上昇しています。令和4年には、岐阜市で最高気温が35度以上の「猛暑日」が20日ありました。近年、夏の暑さが厳しくなり、今後はさらに猛暑日が増えることが予測されています。キノコ栽培は温度の影響を受けやすいことから、安定した栽培を行うためには、夏の猛暑に対する影響の把握と適切な対策が必要不可欠です。



図1 菌床シイタケ栽培

菌床シイタケ栽培

岐阜県内で行われている菌床シイタケ栽培(図1)の多くは、ビニールハウスなどの施設内で栽培棚に菌床を並べて培養からキノコの発生までを約1年かけて行います。空調機器を使用して温度を制御しないので、外気温の影響を強く受けます。また、ハウス栽培は露地栽培と比べて温度が上がりやすいこともあり、夏場の高い温度に注意が必要です。実際、夏場の高温が原因と考えられる栽培トラブルも発生していることから、高温条件がシイタケの菌糸の伸長や発生に対する影響を調査しました。

高温が菌糸伸長に及ぼす影響

シイタケ北研705号を寒天培地上で、20度で7日間培養した後に35度に一定期間(1, 3, 7, 14日間)置き、再び20度温度下に移動し、35度の高温条件が菌糸の伸長に与える影響を調べました(図2)。

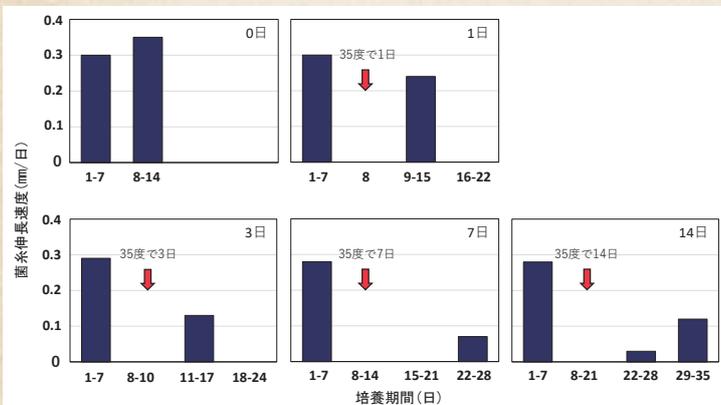


図2 35度の高温条件と菌糸伸長

高温が菌床に及ぼす影響

35度温度下では菌糸はほとんど伸長しませんが、20度に移動すると再度伸長し始めました。しかし、伸長速度は高温条件前に比較すると非常に遅く、35度の日数が長いほど伸長が悪くなる傾向にありました。

同様にシイタケ菌床に与える影響を見るために、北研705号を35度に一定期間(0, 1, 3, 7, 14日間)置いた後、16度の温度下に移動して、シイタケの発

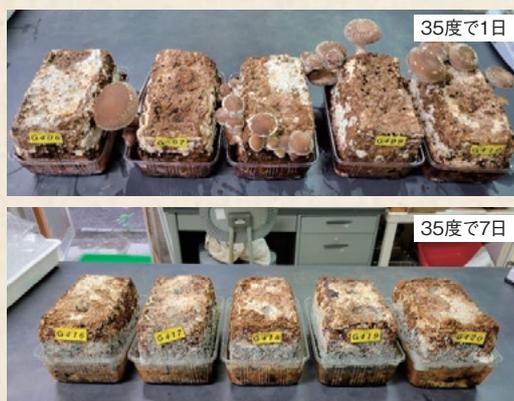


図3 35度の高温条件とシイタケ菌床

生を調査しました(図3)。35度に0, 3日置いた菌床はキノコが発生しましたが、7日及び14日置くと、菌床が雑菌に汚染され、キノコは全く発生しませんでした。35度の温度下で短期間でも置くと、シイタケの菌糸伸長やキノコの発生に悪影響を与えるため、夏場の気温が35度を超える日が多い昨今は、細心の注意が必要で、ハウス内の温度を上げない対策が必要不可欠です。この課題は生産者からの要望も高いため、引き続き調査を進めているところです。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-333-2585

森林研究所まで



# 木材生産を合理化する地域のリーダー

郡上森林マネジメント協議会 事務局長 樋口 享二さん

今回は、森林を見て、その価値を評価できる第一人者であり、郡上森林マネジメント協議会（以下「マネ協」という。）事務局長の樋口享二さんを紹介します。

## 樋口さんの取組み概要

樋口さんは、同協議会の事務局長として、「森林経営管理制度に係る業務」を郡上市から受託し、森林管理に関する①意向調査、②境界明確化、③施業プラン作成等の司令塔として活躍されています。

また、前職（岐阜県森林組合連合会）の業務経験から得た、豊富な木材や林産に係る知識・技術を活かし、各種研修会の講師として、森林技術者等への技術指導も実施されています。

なお、「マネ協」より（マネ協の活動報告）が定期的に発行されています。その中で木材について分かりやすく解説した「木材あるある話」も執筆されており、人気のコーナーです。ぜひ、以下のURL

Lを参照ください（URL: <https://www.gujo-fmgmt.com/>）。

## ●木材業界に携わったきっかけは。

●小さいころからスキーやキャンプに出かけており、自然が好きでした。また、高校の先輩が多数いたこと、家（美濃市）から近かったことから、現在の岐阜県立森林文化アカデミーの前身である岐阜県林業短期大学校へ進学し、卒業後は先生の勧めで岐阜県森林組合連合会へ就職しました。

## ●講演や技術指導のポイント。

●研修会の内容を持ち帰り、現場で活用してもらうために、教科書をそのまま読むのではなく、参加者の年齢、経験等のレベルに合わせて話をしています。また、「美濃流しにわか保存会」に所属し、美濃まつりで「にわか（落ちのついた寸劇）」を演じた経験も活かしながら、実体験を交えて分かりやすく説明し、話に必ず「オ

チ」をつけるよう心がけています。

## ●普段から大切にしていることは。

●依頼されたことは断らないように努めています。自分に話をもらったことをチャンスととらえ、出来る範囲で対応してきました。

## ●森林技術者へ伝えたいことは。

●若い時に苦労した経験がある（教えてくれる人がいなかった）ので、自分が持っている知識・技術は全て伝えていきたいです。

今、どこの山に何（樹種）が、どれだけ（納材規格別の材積）あり、いつ納材できるかを把握することが求められています。森林評価に関する技術を普及するために、研修会等を通して伝えるだけではなく、技術の一般化を目指してICTも活用していきたいです。現在、航空レーザー解析により、林分の面積、樹種、本数、材積等を把握することができます。これらのデータと毎木調査による実測値等を比較し、現場で使い易いように整理しています。

郡上市の木材生産量増大に向けて、豊富な技術・知識を持った指導者でもある樋口さんの更なる活躍が期待されます。

【郡上農林事務所 林業課】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1671111（内線251）

郡上農林事務所まで



各種研修会の様子



# シイタケ原木をめぐる事情



■岐阜県立森林文化アカデミー

林業普及指導員 古川 明里

## 1 シイタケの原木栽培

きのこの中でも、皆さんにもっともなじみの深いものはシイタケかと思いません。

日本では、17世紀にシイタケの人工栽培が始まったと言われています。ナラやクヌギの原木にナタで傷をつけ、その後は自然任せにシイタケが生えるのを待つ方法だったようです。昭和初期にはシイタケ菌が内部にいきわたった原木のかけらを新しい原木に埋め込む方法が全国に広がり、現在の原木シイタケ栽培の元となりました。

山林の多い岐阜県でも以前から原木シイタケ栽培が行われてきました。



原木から生えたシイタケ  
おいしそうですね

## 2 原木が手に入らない…

岐阜県では、シイタケ用原木にはコナラが多く使用されています。原木の調達、生産者自身が森林で伐採する場合（以降「自伐」と言います）と、業者から購入する場合があります。多くの原木は県内産ですが、植菌に必要な量の確保が難しい場合などは県外産を購入することになります。

平成23年に東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生するまで、県外か

ら購入する原木の多くが福島県産でした。事故以降、福島県産のきのこ原木や菌床用おが粉等は使用・流通が無くなり、全国的に需給バランスの乱れが生じました。

さらに燃料高や伐採技術者の高齢化、異常気象などにより、十分な原木が入手できないと生産者が頭を抱える事態が続いています。

## 3 資源はあるけど…

令和元年度から加茂郡白川町で、シイタケ生産者と町、アカデミーが協力して、地元山林での原木調達の試みを始めましたが、令和3年度は伐採可能な森林が見つけられず、ノウハウなどを十分得る前に一旦中断となりました。

原木に使用するコナラは、ドングリが成る樹として知られています。

「あれ？里山を歩いていると、よくドングリが落ちているし、原木になる木は簡単に見つかるんじゃない？」と思われる方がいるかもしれません。

シイタケ原木を生産するには、山林から効率的に運び出せること、森林所有者から承諾が得られること、まとまった量が生産できること、などの条件があり、更に十分な事前調査等が必要です。（自己所有山林であれば、条件が減ります。）

そして、調査・交渉・伐採のためには、何か月の期間が必要です。

購入原木の県内の産地は飛騨地域で

す。コナラなどは、伐採すると残った株から萌芽して成長し（「ひこばえ」とも言います）、30年ほどでシイタケ原木に適した大きさへ成長します。飛騨地域では、これまで原木生産が続いてきたことから、コナラが優先的に成長する「シイタケ原木林」が多くあります。



伐採後に残った株から萌芽したコナラ（高山市内）

シイタケ原木は、コナラ等が葉の中の栄養を幹に移す紅葉以降の秋季から冬季に伐採して生産します。農閑期にあたることから、飛騨地域の農林家の冬仕事として、継続して行われてきたと思われまます。

しかし、このほかの地域では、原木シイタケ生産者の減少とともにかつての「シイタケ原木林」が放置され、大径な高齢コナラ林となったり、多種類の植物が生えた里山林となったりしています。

利用されていない里山林はたくさんありますが、前述の条件を整えば、シイタケ原木を生産することができます。実際に山際から眺めると、モサモサとして手間がかかりそうですが、自伐する方によると、チェーンソーと小型運搬車でコツコツと伐採・搬出を行い、シ

イタケ原木のほか、薪にして販売するなど工夫をして、資源を無駄にせず有効利用しているそうです。

#### 4 担い手づくり・仕組みづくり

また、伐採等の担い手の不足も課題となっています。

大型機械を利用したスギ・ヒノキの生産と異なり手作業の多いシイタケ原木生産には、それに合った人材育成や仕組みづくりが求められます。

近年、スギ・ヒノキを伐ってコナラを植えたいという相談や、植栽した事例に出会うことがあります。広葉樹は針葉樹よりも適地の要求が高く、人工林育成には生育するための適切な知識・技術が必要です。



植栽されたコナラ（本巢市内）シカ防護資材が巻かれている

里山林に現在ある資源やこれから育つ資源を有効にシイタケ原木として活用できる「技術の開発・普及」、「人材の育成」、「地域の仕組みづくり」を進めるため、アカデミーでは、きのこ用原木の生産に関心がある林業事業者や技術者、行政担当者等に呼びかけ、令和4年11月22日に「きのこ原木生産研修」を開催しました。

#### 11/22 「きのこ原木生産研修」



シイタケ原木に必要な条件など説明を受けました（川辺町内）



横田さんが植栽したクヌギの原木林にて（美濃加茂市内）

当日は、5年前に原木を購入から自伐に転換して原木シイタケ生産を行っている横田尚人さん（加茂郡川辺町）を講師に、シイタケ原木の規格や条件、里山林での原木生産についての現地研修と、林業普及指導員による広葉樹林整備の基礎知識の座学を行いました。来年度は、シイタケ原木生産技術や育林技術に関するより具体的な研修を行いたいと計画中です。

また、アカデミーでは、生産者団体結成への助言やシイタケ原木生産に取り組む地域づくりを進めており、今後原木確保や後継者育成等の課題に向けた生産者の活動を支援していきます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-351-2536

岐阜県立森林文化アカデミーまで

### スマート林業通信 31

## 産学官でスマート林業の連携協定を締結

山間部の携帯電話の通信圏外で事故が発生すると発見や通報が遅れ、重大災害につながる恐れがあります。これを防止するためには携帯電話の通信圏外でも通信可能な技術（機器）を普及する必要があります。先進的に取り組まれていた岐阜大学CODEザイン研究センター及び中部電力パワグリッド株式会社岐阜支社と岐阜県立森林文化アカデミーの間で通信エリアの共有等を含めとする連携協定を締結しました。

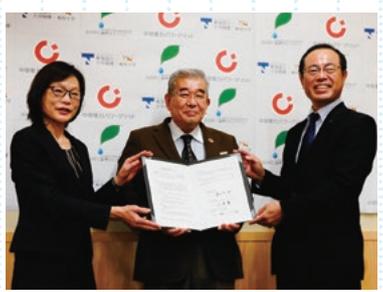
岐阜県も今年度にLPWA通信機器（ジオチャット）を導入し、1月には各農林事務所にて3台ずつ子機を配備します。

使用方法は簡単で、まずジオチャットのアプリをスマートフォンにダウンロードします。そして子機とスマートフォンをBluetoothで接続すれば、携帯電話の通信圏外でも子機が発着信するLPWA通信でチャット（簡易なメール）、SOS信号、位置情報を受信できます。

アプリはLINEのようなイメージで、事前にグループを作ればグループ間でチャットができます。

すでに岐阜大学が西濃、岐阜工リアで広域的な通信網を構築しており、みんなでチャネルを合わせて機器を導入すれば、通信エリアはさらに広がります。

今後は農林事務所職員が子機を持ち歩き、市町村や林業事業者へ普及活動を行います。操作方法を体験していただき、積極的に導入をご検討ください。森林文化アカデミーでも通信エリアを広げる中継機等の研修会を行いますので、ぜひご参加ください。



▲連携協定締結式（11月15日、森林文化アカデミーにて）

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-351-2536

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

# 森林技術・支援センターの 新庁舎が完成

岐阜県内に所在する中部森林管理局の組織には岐阜・飛騨・東濃の各森林管理署のほか下呂市内に森林技術・支援センターがあり、国有林のフィールドを活用した森林・林業に関する技術開発や人材育成、民有林への技術支援・普及等に取り組んでいます。

今回は、令和4年8月に完成し、9月29日に落成式を行った、当センターの新庁舎についてご紹介します。

## ○新庁舎の概要

外観は敷地から見える山並みの稜線に合わせた勾配屋根形状となっており、地域の景観に配慮し建物高を抑えた平屋建てで、景観に溶け込んだ落ち着いたデザインとなっています。

また、建物の主構造や壁材、車庫の屋根など内外装の随所に、国内産の杉材を使った※CLT（直交集成板）が使用され、木質空間の豊かさを感じられる施設となっています。



※ CLT (Cross Laminated Timber) ひき板（ラミナ）を並べた後、木の繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料



山並みに合わせた新庁舎の外観

## ○暖房設備

ペレット（木質バイオマス燃料）ボイラーを使用した暖房設備により、化石燃料の使用を抑制するとともに、森林資源を有効活用しています。



廊下



玄関ホール

## ○木材の再利用

旧鹿兒島営林署木工所で製造され、旧下呂営林署で使用されていたイソノキの床材を新庁舎の床材として再利用しています。



ペレット  
乾燥した木材を粉碎し、圧縮して円筒状に固めた木質バイオマス燃料



ペレットボイラー



再利用されたイソノキの床材

お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

（森林技術・支援センター）



# 『里山再生セミナーNo.2

## ～関係人口創造・維持を目指して～』を開催します。

山林協会通信⑩

里山整備に興味のある方々が活動団体から里山整備の話聞ける場として、「里山再生セミナーNo.2～関係人口創造・維持を目指して～」(詳細は本誌12月号 山林協会通信参照)を下記により開催します。

参加を希望される一般の方は、「里山再生セミナー参加希望、氏名、連絡先(電話番号またはメールアドレス)」を記載した申し込み用紙(様式は自由です)を、「FAX」又は「メール」で協議会まで送付ください。

- 申し込み期限: 令和5年1月20日(金) ※会場の都合から一般参加者は20名(先着順です。枠が一杯で参加不可の場合は、連絡先にその旨お知らせします。)
- 申し込み先: 岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会(公社)岐阜県山林協会内  
FAX: 058-273-3933 E-mail: sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

申込書文例: 里山再生セミナー参加希望

申込者: 日本 太郎(〇〇市) 連絡先: 090-XXXX-〇〇〇〇  
(携帯等ご本人に直接連絡ができるものにしてください)

※E-mailの場合は連絡先は必要ありません。送付されたアドレスに返信します。

※電話ですと氏名、連絡先を間違えて記録する場合があります。申し込みは必ずFAXかメールでお願いします。

【山林協会 瀬上】

### 森林・林業関係イベントカレンダー(R5.1~2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込(問合せ)先/TEL
1月12日(木)	造林作業の指揮者等 安全衛生教育	●講習時間: 8:50~16:50 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 11,200円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月26日(木)~ 1月27日(金)	リスクアセスメント 担当者 安全衛生教育	●講習時間: 26日(林業) 9:20~16:30 27日(製造業) 9:20~16:30 ●申込: 開催日の2週間前まで ●受講料: 12,000円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月2日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月8日(水)~ 2月10日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 8日 学科 8:50~17:10 9日 学・実 8:50~12:00 10日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	8日(学科) 9日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 10日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月14日(火)~ 2月17日(金)	フォークリフト 運転技能講習  受講資格 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間 1日目 学科 8:50~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 32,450円(本代含む)(振込み) ●定員: 20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門 912-1) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195

### COLUMN



#### コラム

2023年は兎年ですね。私は野生のウサギを今までに2度目撃したことがあります。1度目は保育園の時の遠足で近所の神社へ出かけの際、隣接する野っばら(今から考えれば皆伐跡地)で。遠目ながらびんびん飛び跳ねる姿に幼心ながら興奮し、今も心に残る体験です。2度目は、20代前半に白山の登山道(平瀬道)で。登り疲れた顔を上げると突然に道の脇で佇むウサギが目飛び込んできました。息をのんでじっと相対した時間はわずか30秒ほどだったと思いますが、なんだかほのぼのとした癒しの時間でした。

さて、野生のウサギとの遭遇は私の世代だと稀な体験だと思うのですが、おそらく50代以上の皆さんにとって(特に林業者や山間地にお住まいの方)にとっては、野山でよく見かけたのではないのでしょうか。「うさぎ追いし、かの山、小鮒釣りし、かの川…」の世界ですね。この「追いし」は、のどかな歌のイメージから子どもが戯れて追いかけていたという印象がありますが、林業の害獣として狩るために集落みんなで追いかけてまわっていたのが実情だと想像されます。環境省の鳥獣関係統計によると、ノウサギの狩猟数は1950年の48万頭から年々増え、1965年の112.8万頭をピークに、1975年に100万頭を切ると年々減少し、2017年は6.4千頭です。ここ数年の統計はまだ出ていないですが、森林の皆伐更新に伴い、生息数のほうは増えているのでしょうか。はてはて。

「森林のたより」編集委員 長沼 慶拓

#### イベント情報

2月1日発行

#### 連載

- 山の歳時記(210)
- 山のおじゃまむし(379)

#### 清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(121)

#### 木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(119)

#### 清流の国ぎふ森林・環境税

#### 森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

#### 市況情報

#### その他

2月号  
予定

## 木材市場

### 木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1808回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	17,200	—	→
			16~18cm	15,700	—	→
		4 m	20~22cm	16,700	—	→
			24~28cm	16,500	—	→
			30cm以上	15,600	24,000	→
	6 m	16~18cm	—	—	→	
		3 m	16~18cm	23,300	—	→
			20cm以上	20,700	23,100	→
		4 m	16~22cm	22,600	—	→
			24~28cm	19,900	—	→
30cm以上	19,700		43,800	→		
6 m	16~18cm	—	—	→		
	12月6日					
第1395回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→
			24~28cm	16,000	—	→
		30cm以上	15,000	40,000	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→
			20~22cm	22,000	—	→
		4 m	24~28cm	19,900	—	→
			30cm以上	19,700	300,000	→
			6 m	16~20cm	30,000	—
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—	↗
			30cm以上	13,000	15,000	↗
5 m		30cm以上	—	—	↗	
くり	4 m	24cm以上	15,000	154,000	↗	
		12月7日				
第1727回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→
			24~28cm	16,500	—	→
		30cm以上元	15,000	32,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	22,500	—	→
			24~28cm	19,800	—	→
			30cm以上元	25,000	—	→
		4 m	13cm以下	10,000	—	→
			24~28cm	19,000	—	→
	6 m	30cm以上元	25,000	—	→	
		18~22cm	31,500	—	→	
まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→	
		30cm以上元	11,000	—	→	
12月8日						

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

### 令和4年度広葉樹祭りを飛騨林産物共販所で盛大に開催。

【商況】

ヒノキは全体的に需要が緩み価格は弱含み。スギは全体的に安定した需要に支えられ保合。スギ4m元木中目、尺上良材は、活発な応札がみられ引き合いは強い。スギラミナ向け3m・4m材は保合であるが引き合いは強い。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

ヒノキは優良大径木材に高値がつき、県内外からの引き合いが多数で強気の展開。高値は、ヒノキ元木6m×56cm@450,000円、4m×60cm@300,000円、2m×56cm@200,000円。広葉樹も終始引き合いが強い展開で高値は、ナラ1.8m×80cm@310,000円、2.1m×64cm@231,000円、7m×64cm@229,000円、ブナ2.2m×50cm@41,300円、ミズ×3.4m×38cm@65,000円、サクラ1.4m×60cm@123,000円、4.2m×32cm@119,900円、クリ4.0m×46cm@154,000円、クワ2.2m×42cm@60,000円、カエデ2.2m×48cm@81,000円、ニツキ4.0m×44cm@32,700円(飛騨)

ヒノキ元木良材は応札多数強保合、特に4m尺上40cm以上には入札集中。3m柱向け(14cm~24cm)は、継続して引き合い多数で強保合。4m中目は、製品流通の鈍化から売りづらさは継続。土台取りは当用買に終始しているが、良質材には活発な反応あり。スギ4m中目尺上元木良材は、品薄感も相まって前回同様、強保合。4m構造材向けは、今後の本格的な積雪をにらみ需要旺盛、強保合での展開。3m柱向けも同様に、市中からの要請は強い。(東濃)

### 製品卸売標準価格 (11月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m <sup>3</sup> 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	90,000	( 2,977)	→
	間柱	3000	105	30	1等	90,000	( 851)	↘
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	110,000	( 4,851)	→
	柱	3000	120	120	特等	100,000	( 4,320)	→
W 集 成 材	柱	6000	120	120	特等	165,000	( 14,256)	↘
		3000	105	105	国産5層	131,000	( 4,300)	↘
		3000	120	120	国産5層	125,000	( 5,400)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

### 外材市況 (11月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	522	→
	コースト(目荒)	522	→
米母	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

### 森林認証

環境ラベリング制度の一つ。適切に管理された森林から産出した木材を認証することで、森林の保護や持続可能な森林経営の支援や実現を目的とする。独立した第三者機関が、一定の基準を基に認定する。国際的な認証にFSCとPEFCがあり、日本には独自の認証としてSGECなどがある。森林認証制度は、適切に管理された森林に対する認証(森林認証/FM認証)と、加工・流通の認証(COC認証)の2つの認証で構成される。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典